

財団法人仏教伝道協会 平成23年度事業報告書

平成23年4月1日より平成24年3月31日に至る財団法人仏教伝道協会の事業ならびに重要事項は次の通りである。（各項目番号は寄附行為に定めた事業の番号である。）

I. 事業報告

1. 事業一：仏教聖典の現代語訳、外国語訳ならびにそれらの刊行

(1) 「仏教聖典」各国語訳とその出版に関する事項

人類の平和を目指し全世界に「仏教思想」を伝えるべく、「仏教聖典」の翻訳、改訂を進めている。現在、翻訳言語数は46言語となった。また聖典を現代に即した内容にするため、本年度はイタリア語、ロシア語を改訂、刊行した。引き続きタイ語、ヒンディー語等主要言語の改訂を進めている。

(2) 「仏教聖典」の普及に関する事項

①「仏教聖典」を世界の主要ホテルの客室に寄贈する運動は、国内のホテル、病院 約 70軒、海外のホテル 約 220軒より新規申し込みを受け、補充とあわせた本年度の寄贈冊数は、国内約 20,000冊、海外約 43,000冊であった。ホテル累計数は内外あわせて 64の国と地域約 12,600軒・143万室に至った。

②教育や伝道教材および入学ならびに卒業記念品として「仏教聖典」を頒布した。全国の寺院幼稚園、保育園、高等学校、大学で『和文仏教聖典』を約 19,000冊、『和英対照仏教聖典』を約 10,000冊活用していただいた。また、新たに「仏教聖典」の一部を抜粋した小冊子『ブツダのおしえ』を作成し、約 40,000冊を頒布した。

③世界的に進む書籍のデジタル化に対応するため、新たに電子書籍版「仏教聖典」のアンドロイド版を10月に発売し、iPhone/iPod版と合わせて 約 400冊を販売した。その他、7月に開催された、第18回東京国際ブックフェアにブースを出展し、多くの方に“仏教伝道協会の取り組み”を紹介した。

(3) 「大蔵経」の英訳編集とその刊行に関する事項

仏教思想をさらに多くの人びとに弘めるべく、普及に努めている「仏教聖典」の原典である「大蔵経」の英訳事業は、139典籍のうち 70典籍の翻訳出版を終え、部分受領5典籍を含めた 43典籍が翻訳進行中である。日本の英訳大蔵経編集委員会と米国バークレー市の仏教翻訳研究センターに設置の英訳大蔵経出版委員会との協力体制のもと、英訳大蔵経として出版、本年度は42巻目となる『勝鬘經義疏』を刊行した。また、大正新修大蔵経テキストデータベース(通称：SAT)との連携を深め、この一環として、BDKアメリカのホームページで公開されている英訳大蔵経 18典籍のデータをSAT上にて対訳公開するプロジェクトを進めている。

2. 事業二：仏教講演会、仏教聖典講座等の開催

(1) 仏教聖典を初歩英語で学ぶ会について

平成23年9月より一般の不特定多数の希望者を対象に、これまで仏教に隔たりを感じてきた方々や特に若い世代に、英語を通して仏教精神を学んでもらうことを目的とし、「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」を開講。田中ケネス教授（武蔵野大学）を講師として招き、『和英対照仏教聖典』をテキストに、日本語と簡単な英語を交えた講座として、毎月1回午後6時半より午後8時まで開講している。平成24年3月まで開講数は全7回で毎回、約35名が受講している。講座の受講登録者数のは計81名（男性41名/女性40名：平均年齢46歳）。

3. 事業四：仏教研究学生に対する奨学金の支給

(1) 奨学金の支給

仏教の学術振興促進のため、日本に於いて仏教研究に従事する海外からの学者・研究者または学生に対して奨学金給付する「外国人留学生奨学金制度」を設けており、本年度はタイ人研究者・チャイトンディー・プラチャッポン氏（東洋大学博士課程）、ドイツ人研究者・ベッカー・ヤン・クレメンズ氏（花園大学研究院）、ドイツ人研究者・ザイレ・フロリアン氏（龍谷大学研究員）に支給した。

4. 事業五：仏教音楽の現代化とその普及

(1) 第15回「釈尊を讃えて」仏教音楽祭の開催について

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では多くの尊い命が失われた。そこで仏教音楽を通して被災者への思いをともに分かち、さらに広く有縁の方々へ被災地への支援継続を呼びかけるべく、近年開催している一般公募型の音楽祭ではなく、東日本大震災チャリティ・コンサートという形で、音楽法要を含めた特別のコンサートとして、11月30日午後6時半より、東京・築地本願寺を会場に、第15回「釈尊を讃えて」仏教音楽祭 親鸞聖人750回大遠忌・法然上人800年大遠忌記念 東日本大震災チャリティ・コンサートを開催。当日は二部構成。第一部は山本政秀副輪番を導師に、合唱とパイプオルガンは築地本願寺楽友会で「重誓偈作法」を音楽法要で営み、仏前で被災者への追悼を込め、本願寺副住職の大谷光淳新門様らが代表焼香した。続いて築地本願寺雅楽会による「平調音取」「越天楽」などの雅楽演奏、仏教聖典を拝読後、特別ゲストとして「沢村まみとJPSA」が前回音楽祭の第一位受賞曲「君はひとりじゃない」などを歌った。第二部では、津波による被災地である陸前高田市出身の千昌夫氏のトークを交えた熱唱で約900名の聴衆を魅了。チャリティとしてパンフレットの広告収入を含むすべての収入に加え、寄せられた寄付金とその同額を当財団からも寄付、義捐金として約420万円を築地本願寺に寄託し、本願寺から南相馬の高校へ、クーラー寄贈、あしなが育英会東日本大震災、津波遺児募金等の支援金の一部として提供され、その報告書の提出も受けている。

5. 事業七：内外仏教諸教派との協力交流および他宗教との協力等目的達成に必要と認める事業

(1) 仏教伝道文化賞の贈呈に関する事項

仏教の高揚と啓発を目指し、仏教精神、仏教文化、ならびに仏教学術の興隆などに貢献された方がたを顕彰するため、平成22年度第45回仏教伝道文化賞には、文化賞A項（研究・論文・著述・翻訳・踏査・出版・その他）を、浄土教の研究に取り組み、親鸞思想を近代的視野で掘り下げ展開した功績により信楽峻磨師に、文化賞C項（伝道者・実践者・その他）を、仏教精神に基づいた農村開発活動のサルボダヤ運動を展開し、その輪を世界に広めた功績により、アハンガマゲー・テューダー・アリアラトネ氏に贈ることが決定した。同贈呈式を、

平成23年3月17日に挙行予定であったが、3月11日に発生した東日本大震災の影響により、贈呈式を延期、昨年10月12日に挙行した。従って平成24年度からは、10月に贈呈式を行う。また次回より賞の内容を一部改めることが選定委員会により決定された。変更はこれまでの仏教伝道文化賞A・B・C項ならびに功労賞を廃止とし、長年に亘って仏教伝道文化に貢献のあった方または団体に「仏教伝道文化賞」を贈ることとする。一方「沼田奨励賞」を新設し、今後の仏教伝道を通じた文化活動の振興が、大いに期待できる方または団体を顕彰する。現在推薦状を発送、8月に仏教伝道文化賞選定委員会を開催する予定で事務を進めている。

(2) 実践布教研究会開催について

平成23年6月8日～6月10日の2泊3日間、「布教伝道」をテーマに伝道者としてのあるべき姿を研鑽すべく、今回は「布教伝道～地蔵菩薩に学ぶ～」をテーマに掲げ、タイ国からの僧侶2名を含む、全国より宗派を超えて60名の僧侶が参集。恰も法然上人800年大遠忌と、親鸞聖人750回大遠忌に当たることから、浄土真宗本願寺派本願寺西山別院を会場に第41回実践布教研究会を開催した。初日は、まず浄土宗総本山知恩院に参拝し、浄土門主 伊藤唯眞猊下より御言葉を賜り、引き続き浄土真宗本願寺派本願寺を参拝、御影堂での開講式の中で、浄土真宗本願寺派 大谷光真門主より御言葉を頂戴し、橘正信総長よりご挨拶を戴いた。二日目は本願寺西山別院 輪番 大江智朗先生「浄土真宗の行について～本願名号正定業」、行信教校 教授 天岸浄圓先生「浄土の救済～往生の信心」、龍谷大学名誉教授 信楽峻磨先生「布教伝道～地蔵菩薩に学ぶ・大乘の菩薩」をテーマに、それぞれ講話をいただいた。また今回は「仏教の社会性～東日本大震災を経験し、今僧侶は何をすべきか」をテーマに分科会を行い、復旧復興が急がれる被災地に向けて、僧侶として如何に支援しまた役に立てるかについて、被災地からの参加僧侶からの意見も聞きつつ、活発な意見交換が行われ、宗派を越えて互いに親睦を深めるとともに研鑽を積んだ。

(3) BDK復興支援団体助成金について

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は各地に甚大な被害をもたらした。そこで、被災者支援を行った、または行う予定のある、仏教精神によって設立された団体（寺院等）の公益団体を援助、助成するため、「BDK復興支援団体助成金」を設けた。1団体あたり原則30万円の範囲で助成することとし、平成23年6月1日より受付を開始した。被災者へ避難施設・宿泊場所として開放した寺院をはじめ、炊き出しや土砂撤去作業等の各種ボランティア活動を行う団体等へ助成し、助成先75団体、助成総額は1,200万円となった。

(4) 宗教教育教材の施本刊行について

一日一訓カレンダー菩薩シリーズ「おもい」を刊行。カレンダー解説書—新々みちしるべ『おもい』（執筆者 藤田徹文 本願寺派光徳寺前住職）を教化教材として刊行、全国の寺院に頒布した。また、再版の要望があった『人生は丹精』を、表紙に荒了寛師の絵説法を採用し、新装版『人生は丹精-仏教入門-』として刊行した。

(5) 内外の宗教団体・学術団体等との交流に関する事項

(イ) 仏教伝道に関する助成については、本年度は主に以下のような法人・団体に対して金額の助成を実施した。

- ①東京親鸞会
- ②南無の会

- ③財団法人全国教誨師連盟
- ④財団法人東方研究会
- ⑤日本印度学仏教学会
- ⑥学校法人平安学園
- ⑦学校法人行信教校
- ⑧本願寺函館別院
- ⑨節談説教研究会
- ⑩Mugen Project
- ⑪UCLA
- ⑫IBS(Institute of Buddhist Studies)
- ⑬The Toshihide Numata Book Prize in Buddhism

6. その他の事項

(イ) 仏教伝道協会が所有する下記の土地の売却を実施した。

栃木県那須郡 宅地555.7㎡、山林1170.0㎡ (売却先：三豊興業株式会社)

(ロ) 仏教伝道協会隣接土地・建物購入について

当仏教伝道センタービルと隣接する土地・建物を将来の公益事業活動に活用すべく購入した。ただし、平成23年3月11日に東北地方太平洋沖地震が発生し、その建物継続使用に不安が生じたため、一度解体、整備の上、当面は駐車場として使用する予定である。

(ハ) 仏教伝道センタービル活用に関する事項

- ①会議室使用状況 754件
- ②駐車場使用状況 月極 11台

以 上